

はじめに

みなさんは歯科衛生士として、患者さんとのコミュニケーションを楽しんでいますか？ とくに患者さんを担当制で受けもつと、専門職としての貢献だけではなく、人と人とのかかわりも深まり、やりがいを感じませんか？

私は臨床歴は24年で、ブランクはありません。いまも患者さんとのかかわりが楽しく、「歯科衛生士をやってよかった」と実感しています。

そんな私が、歯科衛生士としてのスキルがある程度身についた卒業後5年目のころ、自分が苦手なタイプの患者さんとのコミュニケーションに悩みました。正直なところ、ほんの少しでも「診たくないな」と感じてしまう患者さんに会うと憂鬱になってしまう自分自身が嫌でした。

私たち歯科衛生士は、患者さんとうまくコミュニケーションがとれて、初めて歯科医学的なスキルを発揮できます。私は現在、診療のかたわら、セミナーやいくつかの医院で歯周治療の技術指導に携わっています。そこで、誰にも相談できない立場や環境でコミュニケーションに悩む歯科衛生士の方々とたくさんお目にかかりました。そこで改めて感じたのは、良好なコミュニケーションは時に知識や技術不足さえもカバーしてくれる、ということです。

今回、私が培ってきた経験や実践していることを紹介し、少しでもお役に立てればという思いで出版の運びとなりました。本書は決して、「コミュニケーションの達人になろう！」というハイレベルの内容ではありません。日々の診療で悩んだり落ち込んだりしたときに、先輩から助言をもらう感じで、「ちょっと読んでみよう」と気軽に手に取れる内容です。臨床を楽しむためのちょっとしたヒントとして、活用していただければ幸いです。

2020年4月



歯科衛生士 高原由紀